

コツ通りの燃料

かつての燃料といえば、も薪も木炭でした。大きな家では「へつつい」や「かまど」（煮炊きをする釜を掛けたところ、大谷石やレンガや土やコンクリートで出来ていた）を二、三個備えていました。一般の家では「七輪」「七里」（わずかなスペースでも煮炊きが、できるように工夫されている土製のコンロ）でした。

明治26年11月に白鬚橋近くの橋場に東京瓦斯会社の橋場支所（後の千住製造所・明治18年に創立）が完成し、ガス供給を開始しましたが、費用が高すぎて普及するに戦後30年代を待たねばなりません。薪や木炭の他にレンタン、豆タン、石炭、コークス等が使用されてきました。ガスの主原料であった石炭から副産物として出来たコークスは火力が強く特に鍋物用の燃料として引っぱり張りでこでした。

コツ通りの大踏切を越えて浅草方面へ向かった左が3丁目（地方交番がある）、その向かいの2丁目周辺は明治から大正の頃は燃料商が多く、隅田川が大雨で増水すると町に水が流れ込み、その度に3丁目の方からコツ通りに大量の薪が流れ込んで来ました。なぜ千住大橋の方からでなく、大踏切の方からコツ通りに水に押し寄せてくるのかと申しますと、大踏切の向こうには隅田川の水運と陸上の貨車輸送とを繋ぐ明治34年までに設けられた33本のドックがあり、川の水位が上がるとこのドックから引き込み線を伝わって町中に水が押し寄せてきたのです。

明治20年には日本石油油槽所、26年には東京瓦斯千住製造所、29年には隅田川貨物駅、39年には鐘紡、41年には日紡がそれぞれ設立され、近代工業地帯となりました。これらの工場が稼働するためのエネルギーとして、石炭が必要でした。

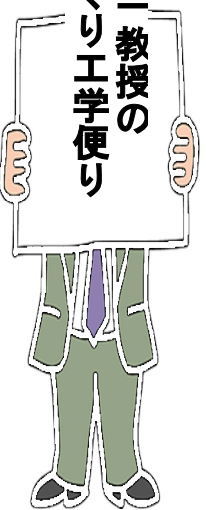
石炭は、常磐炭鉱から貨車で送られ石炭置き場へ、そこから石炭船が川からドックへ入り接岸、そして陸揚げです。当時は「バイスケ」（竹かごで出来ているザル）を天秤棒の後ろにつけ「はね板」につたわって運んだもんです。手間取職人が大勢働き、大変な賑わいでした。

余談ですが、「消ずみ」という煮炊きをした薪の燃えかすを「消しつぽ」という土器のふたの付いた容器に入れ保存し、後で座敷に使う火鉢の木炭の種火に使用したのです。

平成十五年八月の原稿を再度掲載致しました。

☆六郎が語る☆ 南千住一口話 特別編 第36回

吉田喜一教授の ものづくり工学便り



汐入の胡粉づくり

産技高専名誉教授 吉田喜一

汐入は江戸末期から明治にかけて胡粉づくりの村でした。胡粉は白色顔料のひとつで、日本画や日本人形等の絵付けに使われました。当初浅草や橋場でつくられていましたが、牡蠣殻が厚く堆積する汐入村付近に移動しました。牡蠣殻の採掘には集積スペースが必要で、農家の副業となりました。

村上浪六（慶応元年生、昭和19年没）が、小説『当世五人男』で、明治期の苦学生による胡粉づくりの様子を描きました。汐入村の胡粉づくりは、農家の自宅を作業場所とするものづくりで、典型的な『家内制手工業』です。

南千住地域は、田畑の地価が安かったことで、明治中頃から各種大企業が進出してきました。蛎殻の枯渇とともに農家の胡粉づくりは終焉を迎えました。農村地帯が急速に工業地帯に変貌しました。



借別・讃岐路のレトロ電車を訪ねる旅

メガネの 祐一郎君の アドバイス

消費生活
アドバイザー
佐藤祐一郎

こんにちは、メガネのサトウ4代目です。新型コロナウイルスの影響で日程が二回変更となった航空券（ジェットスター、成田〜高松）を使って、先月20日、久しぶりに日帰りで行ってきました。

今回の目的は、いつものような名所旧跡や讃岐うどん店、あるいは温泉ではなく、ローカル私鉄（高松琴平電鉄、通称「ことでん」）の退役する「レトロ電車」が走る様子を眺めるといって、趣味的なものです。飛行機の時刻の制約上、現地滞在時間が五時間ほどと極めて短かったにも関わらず、遅れもなく全ての行程をスムーズに移動でき、天気にも恵まれ楽しいひと時を満喫できました。

空港からバスと電車を乗り継ぎ、田園地帯の小さな無人駅で下車、ため池とイチジク畑を横目に15分ほど歩くと目的地の土器川に着きました。川幅は200mほどありますが、降水量の少ない讃岐平野らしく、水の流れは僅かです。石積の橋脚に風格が感じられる「ことでん土器川橋梁」は、開業当時からのもので、経済産業省の近代化産業遺産にも認定されています。土手には古豪の勇姿を一目見ようと、多くの観衆が待ち構えていました。

戦前から讃岐路を走り続けてきた4両のレトロ電車が、金刀比羅宮のある象頭山を背に、ガタンゴトンと音を立てて渡って来ました。開いた窓からは、抽選で選ばれた乗客が手を振っているのが見えます。最後の花道を飾るべく、力強い音を響かせながら脇を駆け抜けて行きました。

当店公式ホームページに、当コラムをカラー写真付きで掲載いたします。また、公式Twitter内でも写真をUPする予定です。よろしければ是非ご覧下さい。

■メガネのサトウ ■ <https://megane-sato.com>
南千住5の43の13【東京新聞並び】
TEL 03(3806)4930

★休業日のご案内★
9月・10月 ……毎週火曜定休です。

★営業時間のご案内★

◎毎日、午後4時以降は「予約優先」です。ご来店予約は、当日までお電話にて承ります。なお、予約なしでも当日受付いたしますが、状況によりご来店をお待ち頂く場合がございます。

平日（月〜金） ……午前9時〜午後6時30分

土休日 ……午前10時〜午後5時